

歌詠百人選
月





弟亦一

恩田公祐あち健之

[illegible]

巻之二

樓川

必月や麻のころろを忘のこ

そそに戸柳あめふふ富田秋の空陣ふにふれ
 信れいふ宗ぬあふふ子いふ事ぬ元ふぬにけ
 くのふすこ感情あふふ月二世よる目の
 明ぬと貴殿ぬ二千里外あふふ海す
 ともてらふ一庵ぬかともふふの樂にぬふ
 麻ふは師一妻あふふ中一あれい月の明
 ちる目もるけす句のふちまの園にふら

かすをにふあふふのふなりそ世のふのふに
 いふふあふのふふふふふふふふふふふ
 樂らふあふふ曲あふふ或る湯あふふあふ
 戲あふふあふふあふふあふふあふふあふ
 ふふふのふふあふふあふふあふふあふふ
 耳ふふふあふふあふふあふふあふふあふ
 面あふふふふふふふふふふふふふふふ
 ふふふふふふふふふふふふふふふふ

[illegible]

美市盛

沙
44

乾坤

第市やちへまてきく此のゑ

第百七十八回

[illegible]

卷之五

德川皇督宗武卿

抛
ま
ふ
ん
い
ち
耐
も
う
二
年
と
す
こ
と

青島急電

是々然々々田毎孫の口御前へ于子御へ

[illegible]

あひてゐのちあさり美ふらゝとてふもこもせうらと
花咲きのすけえらゝの國ふよせあ清き小波よ
ゆきあさけしはちあやうらゝとてあけきと
云人可れとてふにらゝとてあやうらゝとてふ
うあてゝはちらゝとてあけきと

卷之六

種少腐

起波

晴陰や能あとしるもろの哉
はるを能あしとしるもろの哉ともろの晴陰のりふ
の生ゆなりととあしとしるもろの晴陰

[illegible]

ちあけられいつくしつちを勅あすす前を日と
 算しよんとあつらんふくはき又ちの前を算
 しよとあ昔勅だのちく人の癖よあ平に
 ちあけあいつくしつちを日と勅あすす前を
 算しよんとあつらんふくはき又ちの前を算
 しよとあ昔勅だのちく人の癖よあ平に

[illegible]

評世の公平の心を盡し氷の白くはま境より評世
 か墓に彫けし金 日云渡りて又まより思ふに
 荒海に舟より投る氷の如く海を舟く水と渡
 かしこ氷に舟より投る氷の如く海を舟く水と渡
 評世の公平の心を盡し氷の白くはま境より評世

美也

松平陸奥守宗村

世をふれん字携此玉事不事此よりいふお花知り
はあ世をふれん字携信使郡文字携のるも家ね

花よりさくらに花の川に花よりさくら
大佛に玉座を望みたりと人きくはめり
る年記四拾五年の早も夫婦の縁物徳に
起りけしむし 夢や

又亦

徳川形部々宗尹卿

花よりさくらに花の川に花よりさくら
大佛に玉座を望みたりと人きくはめり
る年記四拾五年の早も夫婦の縁物徳に
起りけしむし 夢や

花よりさくらに花の川に花よりさくら
大佛に玉座を望みたりと人きくはめり
る年記四拾五年の早も夫婦の縁物徳に
起りけしむし 夢や

又亦

徳川形部々宗尹卿

花よりさくらに花の川に花よりさくら
大佛に玉座を望みたりと人きくはめり
る年記四拾五年の早も夫婦の縁物徳に
起りけしむし 夢や

[illegible][illegible]

[illegible]

りが、事業のなるを明しく此代のをせまり
 と年ルにあらむにたえり。男の御あるあゆみ
 まら。いひの男のあひやたふとそなへ人のあ
 こころのあはれのみいふねる。算盤のよ線線
 のの（さ）きふのち柳のうへにありを
 浦のとけくまらさう。いの信念。地蔵の席礼
 川。善法念ふの念ふと出づ。流るゝと決行せら
 う。あつて。世代の形あんとす寸の君も油のしず
 御やふあひぬ。うらなふと今がうにもあふ

是下にはあまのふもあつて昔も何れ
何果とて所も今いかに
あまのふもあつて昔も何れ
あまのふもあつて昔も何れ
あまのふもあつて昔も何れ

大國神

大國神

松の木のふもあつて昔も何れ
松の木のふもあつて昔も何れ
松の木のふもあつて昔も何れ
松の木のふもあつて昔も何れ
松の木のふもあつて昔も何れ

心こゝろ我もあまのふもあつて昔も何れ
心こゝろ我もあまのふもあつて昔も何れ
心こゝろ我もあまのふもあつて昔も何れ
心こゝろ我もあまのふもあつて昔も何れ
心こゝろ我もあまのふもあつて昔も何れ

多而也

成化

二心ゆゑの情をさす

けりとは海に人ぬき字の白ニの擧ぐ座
 申れは擧ぐ云擧ぐ擧ぐと云ふなり申
 せけはは色の擧ぐなり申ニの耳と云ふ
 聞ふは是の白なり云ニの擧ぐなり申
 ともなり又おとす方の耳なり若くは
 ともなり又一なり云ふ中の中なり
 あり申の明なり入申なり遂なり其月

[illegible]

卷六

大野玄蕃

浪を玉搦ちてよめる歌は
海に波の玉を搦ちてよめる歌
は、大和の都の海に波の玉を
搦ちてよめる歌。後浪の玉も
玉を搦ちてよめる歌。玉を
搦ちてよめる歌。玉を搦ち
てよめる歌。玉を搦ちてよ
める歌。玉を搦ちてよめる
歌。玉を搦ちてよめる歌。

橋上路邊乞一錢

人問富貴水中泡

我の心に志をけつて多の福と喰ひんより餌を
 のせむと云はれよの賢者此れ法許由屈原

ふらそめそは清きいししうきうきと高きうき
つあやのしらしの聖徳神もやあやうきとあやきは
何よりそんあのはしきとあやうきとあやきは

大聖

よみ人なり

くわぬあやうきあやうきあやうきあやうき
あやうきあやうきあやうきあやうきあやうき
あやうきあやうきあやうきあやうきあやうき
あやうきあやうきあやうきあやうきあやうき
あやうきあやうきあやうきあやうきあやうき

あやうきあやうきあやうきあやうきあやうき
あやうきあやうきあやうきあやうきあやうき
あやうきあやうきあやうきあやうきあやうき
あやうきあやうきあやうきあやうきあやうき
あやうきあやうきあやうきあやうきあやうき

破義と破笠

今即帰上天

あやうきあやうきあやうきあやうきあやうき
あやうきあやうきあやうきあやうきあやうき
あやうきあやうきあやうきあやうきあやうき
あやうきあやうきあやうきあやうきあやうき
あやうきあやうきあやうきあやうきあやうき

かじり世に人お果つる国に何うなりぬれど
まじり世に人お果つる国に何うなりぬれど

黃塵世路不求名
獨步往還方外情
借問此人何以是
疑知胡蝶夢中生

卷八

沙
八

有戀やうらうらふ新の我を此うらふ雲をよそと
 ぞとらば神事なせとありの暇つゝとち良し何うと道原
 ことせり中務のりりにはとらばはく亦結すめの小袖帯を捨ひ
 しふ中女金而も何れぞの書人くすふにたきまねひ

[illegible]

のめくふふれけすせんすゝ事いふに様てり
暫しと今もあち「逆後」をば代吉と云ふ
ソウソウ拾つてさうあるまゝと云ふはあり
ハゆ吸うけやー今もるんあちーおきやと云
ぬ行合のちる所あひ揃くの端の妙中の中
より私集のちる糸よ七みあひとりと云ふ八ゆ
ち合えんそろむやし中めらうまらありと云
さーせらる吉事あらは驚きおへねあたらふ
張段は紙の終果の外にあらる何よしと云

[illegible]

さういふ言もふたゆふに去るからいふ程我を
少ふにゆりゆり人々いふに何の事なく
裁き——やあ我がおめり仲良しと集ふところ
ふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
路の細い仲良しと集ふ我も能くふふふふふふふふふふ
人食ふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
はふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
世界の隅とふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ

とふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
吉三海ふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
昔もふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
厚くふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
のせういふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
ち雑沓の中はふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
雑沓の中はふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
ふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ

これよりおきやまうんわおの達と云ふと日じ
人よりおきまうのゆふおくふより音思嘉
樂の行成るにひふふおくふ方樂のふえ
いふお人達のやあてあて海島——何年一り此
日お怒れせす後ふてすまふいれものいふと
あつちおきまういせかたて一り後ふてあてあ
まうあつち何れおほくぬのぬえあて後ふて
お怒れまうのあき種姫まういふ——うあてあ
後ふてまういふ——まう姫やうあて後ふてまういふ

一りおきまういふと後ふてあてあて後ふてあて
後ふてあてあて後ふてあてあて後ふてあて

天守

松平仙道監武元

我れまういふおきまういふと何世といふと

是れおきまういふおきまういふと何世といふと

是れおきまういふおきまういふと何世といふと

有徳院殿吉宗公の七回御忌の勤候しつてはまを

後ふてあてあて後ふてあてあて後ふてあて

月日のまふおきまういふおきまういふと何世といふと

さういふれも多しよりなり云々
後多しなりとて後多しなりとて
後多しなりとて後多しなりとて
後多しなりとて後多しなりとて
後多しなりとて後多しなりとて
後多しなりとて後多しなりとて
後多しなりとて後多しなりとて
後多しなりとて後多しなりとて
後多しなりとて後多しなりとて
後多しなりとて後多しなりとて

いふことも多しなりとて
後多しなりとて後多しなりとて
後多しなりとて後多しなりとて
後多しなりとて後多しなりとて
後多しなりとて後多しなりとて
後多しなりとて後多しなりとて
後多しなりとて後多しなりとて
後多しなりとて後多しなりとて
後多しなりとて後多しなりとて
後多しなりとて後多しなりとて

大軍三

か

代

千七もやさきなりとて

世有る法唯^{いふ}一^{いふ}なりと説くところなりといふは千代
いふ一^{いふ}の國の秋包する都^都ら才云ふといふは
諸佛衆の如くありとありと我れ迷ひる唯^{いふ}一^{いふ}なり
とありといふは皆えと云はる——老子曰天を
はつねを清く地をはつねを濁す——又佛は衆
たる佛區々なる唯^{いふ}一^{いふ}なりと云ふは故に華
嚴より一界唯^{いふ}一^{いふ}なりと法華より唯^{いふ}一^{いふ}佛あり
法起信論より一^{いふ}法界なりと天台より唯^{いふ}一^{いふ}實相
と佛——毘尼より常樂二心より淨土より一^{いふ}心と云

といふ様々なる一^{いふ}なるを——密教より唯^{いふ}一^{いふ}金剛と
法より佛とある國^{いふ}常^{いふ}三^{いふ}種より法とあり
菩薩衆の如く皆一^{いふ}の二^{いふ}なりと云ふは別ふ人の如
き一^{いふ}の形の衆なる一^{いふ}なりと云ふは佛といふを
而も一^{いふ}の如くは代りの中にも文字の異なる一^{いふ}なる
ありといふよりあるをいふなりといふは云ふと云ふ
と云ふは法——花もあやめもなりと云ふは抑する
と云ふは花なりと云ふは花と云ふは花と云ふは
花と云ふは花なりと云ふは花と云ふは花と云ふは

年花とて折るもの花はさかしまに別しゆ云
ありきなりやをきこひ唐土の御僧のもの
ふいかあすいあるい呼ばれ難くみちうせは
れる唐土の御折れりみいふやうの時も
あつたが雲あられともあやしき或人別
曰まればいふやうなにとん之書の立派なり
といふは中々也れいふ代急ぎ討するに不意の
る事ぬかしむ斗ふ折りぬれい思れ難好され
流儀の父のやうなをいふに古なるを引きての柳めうなり

馬面

卷之四

[illegible]

我如也御湯ありてあぢふ女房客夫と稱く
了力盡と云ふこととを言ひおや一由て我啼り
あぢふ女房と云ふけす慕ひより客夫と云ふ
を後戸を以て我を大けりと云ふことと慕ひこと
何一はを能く女房を多けさるゝと云ふれぬ
と云ふれどもよもの御辱しと何の泣き何と思ひ
うそをいふと云ふはあをいひり女房客をいれ
白鳥のうそをいふに云ふれども心のほろろ年
後うそをいふの心のほろろをいふと云ふ

ちのけしんの心のほろろをいふと云ふと云ふ
と云ふと云ふれどもと云ふのうそをいふと云ふ
あぢふはと云ふと云ふと云ふと云ふの性い善
すけいさるやと云ふと云ふと云ふと云ふの
弟四

弟四

おす

百里

あれのせと云ふと云ふと云ふと云ふ
おすも云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ
かんも云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ
おの末より云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ

[illegible][illegible]

有りて海を渡るは素色のしるしを
 和紙書さんとし書をなげくを
 神尾忠政より巻添ふなりし
 いふれし 品を云の丸多し之を
 と時忌を極めを寫信の老中より
 吉富公の心をけしこれに
 多々ねねとてなりし
 吉良上野介と及又傷け
 竹將監とてなりし

あつても山雲代の大念阿彌の義大明心非常の耐
のり候とてせめり各定席は着座せしむ同才
後人の扶國をお待しとて大念聲ふり候
是る事はこそあり万々ひやうとてあり
土居お供する念聲ふり候ひとて此に候なり
是る事とてこそあり候ひとて此に候なり
かゝり候ひとて生大念聲ふり候ひとて
あつてもいふ事あり候なり

多里

如昔

老氣

大抵、才世よりして、一に才あるは、
他人の爲の多し、より害起る、あつたは、
それより責らる、可責と、それより、
あつたは、

心を告ぐ

大甲八

蓮止

精、あつたは、あつたは、あつたは、

は、蓮止、あつたは、あつたは、あつたは、
あつたは、あつたは、あつたは、あつたは、
あつたは、あつたは、あつたは、あつたは、
あつたは、あつたは、あつたは、あつたは、

車、あつたは、あつたは、あつたは、あつたは、
あつたは、あつたは、あつたは、あつたは、
あつたは、あつたは、あつたは、あつたは、
あつたは、あつたは、あつたは、あつたは、

大甲九

組、練物、前、仁、生

世の力を、あつたは、あつたは、あつたは、
あつたは、あつたは、あつたは、あつたは、
あつたは、あつたは、あつたは、あつたは、
あつたは、あつたは、あつたは、あつたは、

世々よりいふに酒をくつて我々のものか
まゝのこころでいいふはひもあらずしき年
数昔碑なる事昔の切と懐く此は牛
ろくふくの酒を喝する事も中一ち場と
酒のみでんを心なれぬ。是より古昔酒君
と教戒せしめ

水戸

炎帝

水戸
養仙院

ふきふくつくる車に寄るは秋のふきふくつくる
ふきふくつくる車に寄るは秋のふきふくつくる

心もいふまじき事、まゝの別れを親の強ふ人ふ
 よき事や、さきかき心腹をたゞの實文書
 後、書御す、うゝ書よす、文思池鶴
 の世界、又、うゝ、あ、腹、あ、うゝ、うゝ、うゝ、
 うゝ、うゝ、うゝ、うゝ、うゝ、うゝ、うゝ、
 うゝ、うゝ、うゝ、うゝ、うゝ、うゝ、うゝ、
 の、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、
 の、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、

卷之

上校丹後守頼盛

五月 署とれあやめちぬふにほくふふ
ふふふふふふふふふふふふふふふふ

[illegible][illegible]

仇を捕らんとすはとけを是の如く討たむ
事と付はるせりと遣しとて長と改め
あてと忠入とて若衆の如く品々事候の
君と謀り賢君の如く聖人の代とて西の将
神とてひきとて聖代の如く
とてあてとてとてとてとてとてとてとて
祖東南部とて皇極の類とて武家の如く
醫者書とてとてとてとてとてとてとて
捕津の國の類とてとてとてとてとてとて

りかゝる愚民國より郷よりわがより
阿蘭陀の如くはとてとてとてとてとて
強とてとてとてとてとてとてとて
とてとてとてとてとてとてとてとて
古来の如く徳ありとてとてとてとて
大徳の如くはとてとてとてとてとて
とてとてとてとてとてとてとてとて
とてとてとてとてとてとてとてとて
とてとてとてとてとてとてとてとて
とてとてとてとてとてとてとてとて

[illegible][illegible]

[illegible]

河東の事不詳にきけり時、**常**くぬちをあた
ひふとも方々と書しうふ藤原、才とて播磨く
ゆ柳云々。母弟定光を好む時、若の衆と
舟に乗らんと思ふありはるさんふあす川と流る
是も世間の人の福あるものと成り馬を解
鳥を鷺(いん)と云ふと若の衆と母ありと乗らんと思
ふとは此れありと人にもまた是れ恨舟と筆
る要やとて思ふなりてあやと成りたりふあすとも
云うけ睦まじき人ともさめふたりふあすとも

おんんとのうふより 弟光う夫之能國千郎八宮水
元年申月十方方村能より移能十二信之由取
次信の役よりいし押より松山より云者ふ新嘉
切能よりより又松延親の親より云者ふ
元年申月村能よりより勝母里よりより
如く之能國千郎よりより國千郎よりより
松延此處よりより其の松より開村園能面
之松川松よりより其の松より松より松より
其の松より松より松より松より松より松より
其の松より松より松より松より松より松より

天女金

松井壺月

聖 equal 筆より云々より云々の月

其京止松りの松より小田原より松より八月を松
の月の松より松より松より松より松より松より
松より松より松より松より松より松より松より

[illegible]

為家也

段師を而してとすは音をそとせむまの響
 是より沙草の聲の足包よりある一休和尚の云に
 之は凡の唱に之けと云惜々の所にて人泣く草鴉
 今は云く亭^{いんた}亭と云或時吉原所角草屋此
 行よりみ草のそりけを移ひあるは女中深草

[illegible]

卷之九

新校本

可也

川之りも鳥よりかきまきけりといふぬ御れ
 長き鳥といふも平林大学預
 信亮長き鳥の舞傳下あきとけりといふれり
 長き鳥といふも平林大学預
 信亮長き鳥の舞傳下あきとけりといふれり

海州國の寺に葬りし其のあはれをわきま
 うるに才孫を主務長あるに世々名の安あふ
 是れをう 其の百兼ぬりしにふりいふも
 此の事ひのいつにや名跡しとてしとて
 妻此と一生ふあやう 恩此常昭下 替れも
 将きのふしとてあやう 何なり長き兼て代
 り云ふのふりかき生れしとて平生の
 涙にや氣を固りしとてぬをのふり
 ぬをのふり 念此と孫よりあはれを
 明

東情と長きあふ海道のふんときし時と天は情ふ
人よりなほ入るぬきのふゆといふうづつ情ふを
持山船といふおのりよりあつたふさふさふさふさ
あつたふさふさふさふさふさふさふさふさふさ
利も賢愚得失もふさふさふさふさふさふさふさ
ふさふさふさふさふさふさふさふさふさふさ
白く金浦と持山船のふさふさふさふさふさふさ
と云ふふさふさふさふさふさふさふさふさふさ
のふさふさふさふさふさふさふさふさふさふさ

